



大聖恩寺本堂のご宝前で

新誌

復刊第十八号
2013年 8月
身延別院発行
〒103-0001
東京都中央区
日本橋小伝馬町3-2
Tel 03-3661-3996
Fax 03-3663-2766

副住職が大聖恩寺参拝

ドイツ唯一の日蓮宗寺院

当院の副住職、藤井教祥師が六月十三日、ドイツ・デュッセルドルフ近郊の日蓮宗寺院・大聖恩寺を参拝しました。副住職が主宰する「次世代布教研究会」の欧州視察旅行の一環として、若手僧侶ら七人と共に訪れたものです。

大聖恩寺は、異文化交流を目的にデュッセルドルフ近郊のヴィッパ―フートという小さな町に一九九八年に建立されました。ドイツ唯一の日蓮宗寺院です。二〇〇二年に火災で本堂を全焼するという事態に見舞われましたが、大曼荼羅御本尊だけが奇跡的に無傷で残りました。様々な困難を乗り越えて本堂は再建され、御本尊は本堂に安置されています。

ドイツはキリスト教を信仰する人がほとんどで、他の宗教が入り込む余地がないそうです。このため大聖恩寺は、仏教の教えを広めたり、信徒を増やしたりしないことを条件に建立が許可されたのだそうです。

したがって大聖恩寺は地元ドイツの檀信徒さんに支えられているのではなく、日本の篤信家からの浄財によって全面的に運営されているということでした。地元の小学校・中学校の児童・生徒が日本の仏教について学んだり、地域の人々が公民館のように使ったりする場所として親しまれているようでした。体育館を思わせるような大きな本堂でした。

副住職らの一行は、大聖恩寺のご宝前で法味言上し、引き続き大聖恩寺の若手僧侶らから案内を受けました。日本のお寺とは、だいぶ様子が違うことがわかると同時に、海外でお寺を運営していくことの厳しさを感じました。(五ページに特集、文責・平山)



昭和五十年に建て替えられた本堂は現代風の建物

御首題を いただく旅

第十八回 鹿児島市・教王寺

火防せのお祖師様

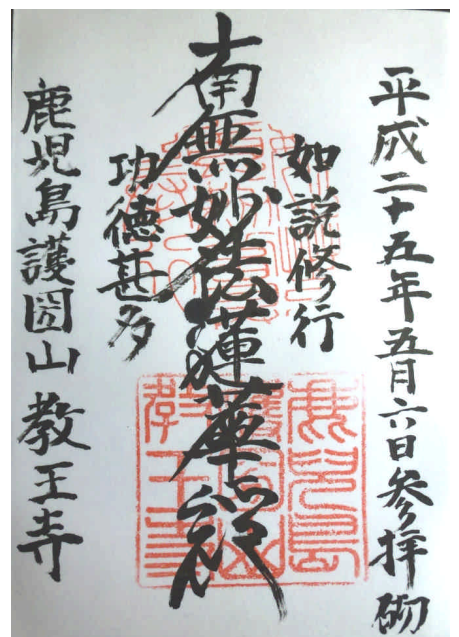
全国の日蓮宗のお寺を訪ねる私の「千か寺参り」の旅は七年を過ぎました。最初に訪ねたのが、千葉県鴨川市にある大本山・誕生寺でした。平成十八年五月五日のことです。身延別院との出会いも、千か寺参りでした。記録を見ると、同年九月十日のことで、五十五番目にいただいた御首題でした。

そのご縁で身延別院に足を運ぶようになり、ご住職や奥様と意気投合し、「寺報「願満」を復刊しよう」ということになりました。第一号が復刊されたのが平成十九年十一月。その時点で私がいただいた御首題は、二百五十二でした。実は、そのころ私は「千か寺参りなんて、とても無理。全国の日蓮宗のお寺をコツコツと歩くだけで、十分楽しいし、幸せ!」と考えていました。しかし、そのコツコツが積み重なって、現在、いただいた御首題は、一五〇六(今年七月一日現在)となりました。ただ、問題なのは、近場のお寺はほとんど行き尽くして、お寺がほとんど遠隔地になる傾向があることです。

今年の五月には、鹿児島市のお寺を訪ねてきました。鹿児島市は人口六十万人の大都市ですが、日蓮宗のお寺はたった一か寺しかありません。そのお寺が教王寺です。

鹿児島中央駅から歩いて二十分ほど。鹿児島市最大の繁華街・天文館にも近い中心市街地に、鉄筋コンクリート二階建ての立派な本堂がありました。

教王寺の資料を読んでもと、長い間、鹿児島県は法華不毛の地とされていましたが、明治十九年に鹿児島法華宗題目講が結成されました。同四十二年



に一人の熱烈な信者が私財を投じて現在の敷地を奉納し、お寺の基盤ができました。そして大正八年三月に池上別院として寺号公称、開山は当時の池上本門寺貫首・久保田日龜上人、開基は初代(第一世)・浅野日柱上人としたのだそうです。

また、教王寺の祖師像は、大正三年に旧本堂が建立された際、東京の大本山・池上本門寺から遷されたものです。池上本門寺に現在安置されている祖師像と言えば、鎌倉時代に製作された写実的な像で、国の重要文化財に指定されています。この像に万一のことがあったら、教王寺の祖師像は池上本門寺に返すことになっているそうです。そのくらい池上本門寺と関係の深いお寺のようです。鹿児島大空襲で市街地は焼け野原となりましたが、教王寺は奇跡的に焼免れました。そのため祖師像は「火防せのお祖師様」と呼ばれているのだそうです。明治時代に建立されたという点ではまだ歴史は浅いのですが、様々な逸話を伝えるお寺だと感じました。(平山徹・新聞記者)

原発問題に焦点合わせ欧州視察

副住職ら次世代布教研究会

一面でお伝えしましたように、当院副住職の藤井教祥師が主宰する「次世代布教研究会」の有志八人は六月、ドイツ唯一の日蓮宗寺院・大聖恩寺を参拝しました。これは、同研究会が六月十二日から十八日まで実施した「欧州開教布教と原発事情を視察する旅」の一環として訪れたものです。次世代布教研究会は昨年秋季に発足し、これまでに三回の勉強会を開いてきました。本格的な視察

旅行は初めての取り組みです。東日本大震災からの復興と国づくりを進めていく上でたいへん重要な課題である「原発問題」に焦点を合わせ、欧州視察をすることにしました。訪れたのは、使用済み核燃料の最終処分場を決定し建設着工したフィンランドと、脱原発に舵を切ったドイツでした。フィンランドのオルキルオト原子力発電所ビジターセンターの職員やエウラ

ヨキ自治体首長、ドイツ環境自然保護連盟ベルリン支部のメンバーらと直接意見交換を行い、貴重な機会を経験となりました。ドイツ・デュッセルドルフからケルンに向かうドイツ新幹線が大雨による洪水で停止し、急ぎわぬハプニングにも見舞われましたが、全体として有意義な時間を過ごすことができました。



ドイツの大聖恩寺本堂正面で



ドイツの環境保護団体のメンバーと(写真右上)

フィンランドの使用済み核燃料処分場で(写真右中)

フィンランドのエウラヨキ自治体の首長と(写真右下)



欧州視察中に副住職らが訪れたドイツ・ケルン大聖堂。世界遺産に指定されている

副住職がこの秋 荒行第参行へ 壹百日祈願申し込みお受けします

大黒天神の秘法奥義を修得

当院副住職の藤井教祥師が、本年十一月一日より壹百日の大荒行堂に入行します。荒行堂では二時間半の睡眠、朝晩二回の白粥で飢えをしのぎ、一日七回の水行と昼夜読経三昧にて日蓮宗祈祷相承の奥義を修得します。そして今回副住職が入行する荒行第参行は大黒天神の秘法奥義を修得する修行です。



壹百日の入行期間中に檀信徒皆さまの「子孫繁栄」「身体健全」「家運隆昌」「商売繁盛」などの壹百日祈願の受付を致します。お申込みいただいた方には皆様の壹百日祈願一升枧入の大黒天神をお授けします(一升枧、五合枧の二種類が選べます)。これを機会にどうぞ皆さま奮ってお申込み下さい。

祈願内容、祈願料等の詳細は別にご案内致します。ご不明な点は当院までご連絡下さい。

世界遺産富士山の経ヶ岳 身延別院の檀信徒が参拝



富士山経ヶ岳を参拝する当院の檀信徒さん



常唱殿の中でお題目をあげる参拝者



当院の檀信徒の皆さん

世界遺産に登録された富士山で七月三日、経ヶ岳大祭が営まれました。身延別院から河野信成師はじめ檀信徒の皆さんら計五人が団参に訪れました。

富士山経ヶ岳は、日蓮聖人が文永六年(一二六九年)の夏、富士山の中腹五合五勺の地を訪れ、法華経による天下太平・国土安穩を願ってみずから書写された法華経を埋めた場所です。「宗祖埋経霊場」とも呼ばれています。

日蓮聖人を案内したのが富士山麓に住む塩谷平内左衛門という人で、塩谷家はそれ以降、この地を守ってきました。しかし廃仏毀釈などを経て、経ヶ岳は荒廃寸前となりました。昭和二十七年(一九五二年)、身延別院の初代住職、藤井日静上人がこの地を訪れ、富士山麓鉄道

(現在の富士急行)社長、堀内一雄氏とともに霊跡の復興計画に着手しました。全国から浄財を募り、翌年には常唱殿を建立しました。

以後、経ヶ岳は身延別院第二世、藤井日光上人、身延別院第三世(現住職)に受け継がれ、代々守られてきました。平成十七年(二〇〇五年)にその管理・運営を身延山久遠寺に受け渡しました。現在は久遠寺の直轄地となっています。

この日、経ヶ岳で法要を営んだのは、身延山久遠寺から訪れた横山義弘・百万人講本願人会本部事務局長、布教部の僧侶、僧堂実習生ら。身延別院の一行をはじめ、各地から集まった有缘の各上人、檀信徒さんらも加わって、常唱殿でお自我偈やお題目を唱えました。

寺の動き

みおしえを学んだよ
寺子屋修養道場開く



「寺子屋修養道場」が八月三、四日、身延別院本堂などを会場に開かれました。当院青年会が開催したもので、檀信徒の子どもさん、お孫さんなど五人が参加しました。



副住職から説明を受ける子どもたち

「寺子屋修養道場」は、青年会が子育て支援を中心に活動していることから、副住職が中心となって企画を練り、平成二十二年に初めて開催されました。子どもさん、お孫さんが家から離れ、お寺で生活することで、人や命に対する感謝の気持ちを養ってもらうことが目的です。

一日目の午前十時半から、保護者も参加して開会式が行われました。日程説明、昼食、お経練習、法話の後、子どもたちは日本橋三越前の棧橋から川下りを体験しました。夕方のお勤めの後、浅草橋の銭湯に行き、みんなで熱い湯船につかりました。お寺に戻り、就寝前にはピンゴ



川下りで子どもたちは興味津々

大会も行われ、楽しい一日を締めくくりました。

一日目は午前六時に起床。朝のお勤めとして、お自我偈とお題目を唱えました。朝食前の掃除の時間には、みんなで手分けをして本堂、廊下、境内の清掃にも取り組みました。午前九時十五分に当院を出発し、江戸東京博物館に向かいました。同博物館を見学した後に、子どもたちとスタッフは、午後二時半から当院で閉会式に臨みました。子どもたちにとってもスタッフにとっても、あつという間の二日間でした。

本堂で施餓鬼大法要

身延別院の盂蘭盆会施餓鬼大法要が、七月十六日午後一時から、本堂で厳かに営まれました。お盆(盂蘭盆会)の送り火の日に行っている恒例の行事です。今年は檀信徒約六十余人が本堂に集い、全員で提婆達多品、お自我偈、お題目などを唱え、ご先祖をはじめ、有無両縁の諸精霊を供養しました。

当院で七夕祈願



身延別院で七月七日、七夕祈願を行いました。地域の皆さんにお寺に親しんでもらおうと、平成十八年(二〇〇六年)から始めた行事です。今年七月四日に本堂前に笹竹が設置され、さまざまな願い事の書かれた短冊がたくさん結びつけられました。

青年会が縁結びの集い

身延別院青年会は四月二十一日、身延別院で「縁結びコン」を開きました。若者にお寺へ足を運んでもらい、お寺を縁にして、男女の縁を結ぼうという試みで、青年会が企画しました。今回で三回目となりました。

青年会のメンバーが未婚の友人にチラシを配ったり、フェイスブックで参加を呼びかけたりした結果、二十七歳から四十二歳までの男女二十人(男性十人、女性十人)が参加しました。

参加者は午後三時過ぎに本堂に集合し、まず数



漫才コンビ「ボヘミアン」がコントを披露

珠ブレスレットづくり挑戦しました。続いて良縁成就のご祈祷を受けました。このあと当院の檀家である漫才コンビ「ボヘミアン」が登場し、コントを披露。続いて副住職が「恋愛の極意」というテーマで法話をしました。夕方からは当院近くのベルギーレストランで懇親会を開き、参加者は青年会スタッフと共にうちとけて語りました。カップルが成立したかどうかはわかりませんでした。若い世代にお寺へ足を運んでもらうために今後も青年会は縁結びコンを開いていきます。

べつたら市への出店、今年はお休み

身延別院青年会は、毎年十月十九、二十日、東京・日本橋本町の宝田恵比寿神社を中心に開かれる「べつたら市」に出店してきましたが、今年はお休みします。例年だと、べつたら市出店準備の中心となってきた藤井教祥副住職が、今回は中山法華経寺荒行堂に入行する準備で多忙になるからです。青年会のべつたら市出店は平成二十一年(二〇〇九年)からで、青年会メンバーが毎年知恵を絞りながら、揚げたこ焼き、讃岐うどん、豚汁など、提供する食べ物を決めてきました。

お稚児さん中止

毎年十一月三日に行われる身延別院のお会式で、今年もお稚児さんを募集しないことにしま

した。昨年と同様に十思スクエアが工事中でコミュニティルームが使えず、お稚児さんの支度場所を確保できないためです。

また、お会式で本堂の外内に飾り付ける花の製作を十月二十、二十一日に行います。お手伝いいただける方、よろしく願います。

今後の予定

九月一日(日) 願満祖師終日お開帳

二十日(金)～二十六日(木) 秋季彼岸会

二十六日(木) 彼岸会施餓鬼法要

午後一時より

二十三日(月) 総武霊園ならびに永代供養墓

彼岸法要

十月一日(火) 願満祖師終日お開帳

二十日(日)、二十一日(月)

お会式花づくり

十一月一日(金) 副住職教祥師荒行堂第参行入

行

願満祖師終日お開帳

三日(日) 宗祖報恩会式

編集後記

今回は、副住職らが訪れた欧州視察の様子をお伝えしました。原発問題をめぐり欧州の市民団体とも直接意見を交換するなど、有意義な旅行となったそうです。精力的に活動を続ける副住職に拍手を送りたいと思います。(平山)

? 仏教とキリスト教との違いを教えてください

仏教何でも質問箱



答え

仏教とキリスト教では、崇拝の対象としての神と仏、世界観や死生観などといった重要な点において著しい相違があります。順に説明しましょう。

まず第一に、神と仏の違いについて。一口に神といっても、仏教でいわれる帝釈天や梵天、四天王などの仏法守護の神々や、また神道の八百万の天神地祇、あるいはインドのヒンドゥー教の神々、中国の道教の神々など、宗教によって異なる神がありますが、キリスト教の神は、それらの神々とは根本的に相違します。キリスト教の神は、実はその母胎となったユダヤ教の神や、キリスト教の後に成立したイスラームの神とは同一の存在です。その神の名はユダヤ教やキリスト教ではヤハウェあるいはエホバ、イスラームではアッラーと呼ばれますが、同じ神です。この神は唯一なる神で、他の神々はおらず、全能者にして、世界の創造者です。旧約聖書『創世記』にあるように、神は天地を創造し、六日目に獣と家畜をつくり、神の姿に似せて人間を造りました。ですから人間は神によって造られた被造物ということになります。ここが仏教との大きな相違です。

仏教の仏は、人間が修行の結果、真理を悟り、(真理に)目覚めた人(覚者)となったのです。本は私たちと同じ人間です。ですから大乘仏教では誰もが仏になる(成仏)可能性があると言っており、『法華経』では『法華経』を信じるることによってだれもが成仏できると言っています。キリスト教では神と人間とは隔絶しています。ただし、キリスト教の開祖イエス・キリストだけは神と人間との間の橋渡しをする存在とされています。

次にはそれぞれの開祖について。キリスト教の開祖はイエス・キリストで、救世主として人々から崇められました。わずか三十余歳で十字架の上の人となりました。しかし、キリスト教ではイエスが死後三日目に蘇り、四十日後に昇天した

ことが信じられています。また、イエスは人間ですが、イエス自身が「神の子」として自覚し、神を「父」と呼んでいたといえます。しかし、キリスト教では神と人間とは決定的な断絶があり、人間は神そのものになることはできません。そのためか、後になってその断絶を埋めるかのように紀元四世紀ころから、「父なる神と子なるキリスト」と聖霊とは一体である」とする三位一体説が唱えられ始め、種々の議論の末、今日この説が正統の教義とされています。

一方、仏教の開祖はイエス・キリストを遡ること約五百年、釈迦族の王子として出生し、出家苦行の後、三十五歳で仏になりました。その後八十歳で入滅するまで、八万四千といわれるほどの多くの教えを説かれました。歴史上の仏は釈迦仏ですが、経典中には阿弥陀仏や弥勒仏など多くの仏が説かれています。仏教では過去現在未来の三世に亘って多くの仏が出現するとされており、この点もキリスト教の神との相違点になります。

最後に死生観ですが、仏教で説く死後の運命は、生前の行いによって死後に生まれる世界が決まるという業報輪廻説が基盤です。人は死後、成仏出来ない場合は、四十九日以内に次の生を受けます。地獄界から天界までの六種の世界のいずれかに生まれるのです。そして、そこでの寿命が尽きた後は、またその行いによって次の生を受けるといように、ぐるぐると輪廻の生を巡ります。その輪廻から脱することが解脱で、仏になるといことです。『法華経』では、仏は永遠の生命を得て、常に靈鷲山の上方にある靈鷲山浄土におられると説かれています。

ではキリスト教ではどうかといえば、人もキリストの教えを信じるることによって死後天国において永遠に生きるとされます。しかし、それは最後の審判の後です。人は死んでも、それは本当の死ではない、単に眠っているだけだとされます。そして、世界の終末の時にイエス・キリストが再臨し、あらゆる死者をよみがえらせて裁きを行い、キリストの教えを信じる者は天国で永遠の生命を与えられ、信じない者は地獄に墜ちるとされます。つまり未信者は地獄行きということで、先祖供養や死者供養はしません。そうなることと未信者のままでこの世を去った両親や親戚縁者はすべて地獄ということになります。仏教では先述のように六道輪廻を説くとともに、東アジアの仏教では死者の追善供養をします。永遠に地獄ということはあり得ません。この点も大きく相違するところです。以上、仏教とキリスト教について、その重要な相違についての大まかな説明です。